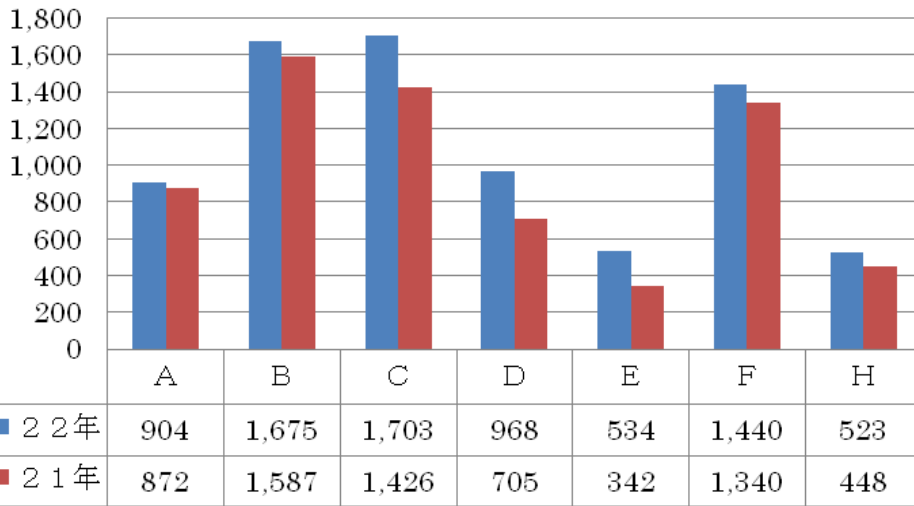


「省エネ市民会議」					
会議年月日	22年10月8日	時間	13:00 ~ 16:00	場所	流山市生涯学習センター(3F)
出席者	伴、早川、日比野、突田、平手、高橋、春田(記)、馬渡、塩幡、大前、石井、新田、新美、伊藤 (ホワイトボードに向かって時計回り順に記載、敬称略)				
議 題					
1、気温と電力消費量との関係(伊藤)					
・戸別の低炭素化ライフスタイル評価の全市的展開の可能性(環境アセスメント学会の発表資料)					
=省エネ(低炭素化)評価に気象(気温)条件を組み込む試みをした。					
5住宅の夏季データから電力消費性向(精算消費電力量/積算気温)を求めた。					
・結論:夏季においては消費電力量と気温は線形(比例)関係にある。					
この関係式を用いることで省エネ評価が可能である。					
・課題:・夏季以外の季節の評価方法を検討。(*)					
・家族構成、住宅環境、省エネ家電の導入などの影響					
・電力以外(ガス、灯油、ガソリン...)の評価方法					
*年間評価の方法として気温を20℃で折り返す方法(ミラー手法)について(平手)					
たとえば冬季の5℃は20℃までの差が15℃ですので20℃で鏡を立てると35℃、					
すなわちそれだけ多くの熱エネルギーが必要になることを示す。平均気温が20℃を超えた場合は					
ミラー手法は用いないで、そのままの温度を使うのがポイント。					
課題として折り返す温度が20℃で良いかを検証する必要がある。					
2、会員の電力消費量(7月~9月)評価(春田)					
当日は生データを使って評価したが、データの整合性を図るために東電検針日数、期間でデータを					
修正して比較したのが添付表である。					
消費電力量と気温との関係式を求めて省エネ評価した。					
・課題:消費電力量が多いほど省エネ評価が高い?					
長年、省エネ努力し消費電力量を抑えて来たお宅の評価をどうするか					
家族構成、住宅環境、省エネ家電の導入などの影響をどのように評価するか					
(注意)伊藤先生が取りまとめた「家庭の電力消費特性」の5家庭(A宅~E宅)と、2Pに添付した					
モニターA~Hは、関連性がありませんのでご注意ください。(別宅のデータです)					
2Pのデータは省エネ市民会議の皆様から提供されたものを表しております。					
次回の予定:					
・日時=11月12日(金曜日)13:30~15:30					
・場所=生涯学習センター(3F)					
・内容=照明の省エネ法(菅原) 以上					

夏季（3ヶ月間）の電力消費量と省エネ評価

夏季の消費電力量

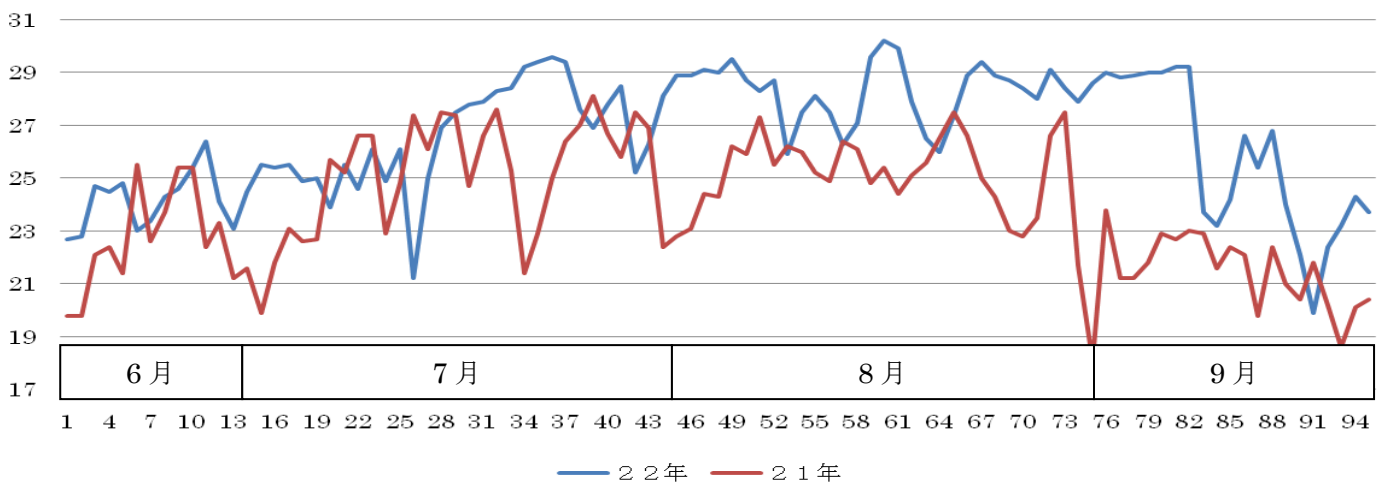


東電の7月～9月検針データは、22年：6/18～9/20、21年：6/18～9/17となっている（A宅）。比較をする為に21年を95日分に修正。

前年度比で見ると

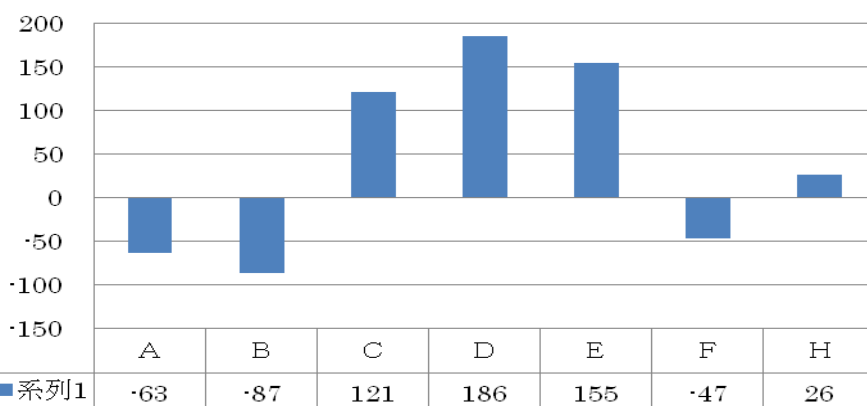
- A=104% (+ 32kwh)
- B=106% (+ 88kwh)
- C=119% (+277kwh)
- D=137% (+263kwh)
- E=156% (+192kwh)
- F=107% (+100kwh)
- H=117% (+ 75kwh)

夏季（6/18～9/20）の平均気温



平均気温：22年=26.6℃ 21年=23.9℃ 22年は21年に比べて111%であった。 気象庁（我孫子）データ

省エネ評価（性向から求めた差）



21年の消費電力性向（消費電力量/気温）の関連式で22年の消費電力量を計算し実際の消費量との差が左記の表である。

A：22年の消費量は904kwhであるが関連式で計算した値は841kwhである。従って22年は-63kwh省エネ努力したとして評価出来る。

作成：2010-10-8

温暖化防止ながれやま（春田）